



1933 (昭和8)年

銚子市誕生

県立盲学校創立

昭和旱魃。九十九里地方が大干害となる

1934 (昭和9)年

高村光太郎の妻智恵子が九十九里浜に転地療養

県営水道事業開始

木更津海軍飛行場完成

市川市誕生

谷津球場で第2回日米野球の合同練習、ペーブ・ルースも参加

三笠商会(現株式会社合同資源)、夷隅郡上渚に天然ガスかん水を用いたヨウ素工場を建設

1936 (昭和11)年

二・二六事件で佐倉歩兵第57連隊が上京

千葉・茨城両県を結ぶ水郷大橋(香取市)が完成

1937 (昭和12)年

船橋市誕生

木更津海軍航空隊の攻撃機が南京へ向け長崎県大村基地から発進

木更津港内港ほぼ現在の形に

昭和初期、戦前の混乱 交通インフラから居住

1936
(昭和11)年

利根川兩岸の交流に 寄与した水郷大橋



初代水郷大橋 / 香取市教育委員会



初代水郷大橋の銘板「するがうおほはし」 / 香取市

大正時代末頃、利根川には現我孫子市の栄橋から下流には橋がなく、陸上交通の普及が進む中で千葉県と茨城県の往来に支障をきたしていた。次第に旧佐原町を中心に架橋の必要性を訴える声が高まり、現香取市と茨城県稲敷市を結ぶ水郷大橋の工事が決定、1936(昭和11)年3月3日に完成した。橋長は553m、有効幅員は6mで、2本の主塔を持つトラス橋だった。

その後、250mほど上流に新たな橋の架け替えが決まる。それが1977(昭和52)年3月開通の2代目水郷大橋だ。橋長は535.25m、幅員は25.5mで、中央の塔から斜めにケーブルを張って支える斜張橋になっている。1983(昭和58)年の第二期工事により、現在と同じ片側2車線の4車線になった。

から戦後の復興までの激動の時代。 環境、教育まで幅広い分野が成長

1937
(昭和12)年

江戸時代から海上運送の拠点として栄えた木更津港



竣工せる木更津港 / 千葉県立中央博物館



木更津の海岸(五大力船) / 木更津市立図書館

東京湾東岸のほぼ中央に位置する木更津港。木更津市・君津市・富津市の3市にまたがり、現在では、首都圏の発展を担う主要な港湾のひとつとなっている。

その歴史は古く、江戸時代には幕府から渡船営業権を与えられ、海上輸送の拠点として栄えていた。明治時代には木更津・東京・横浜を結ぶ定期船も就航したが、大正時代に入ると鉄道の開通に伴って海運業は次第に衰退した。

しかし、1934(昭和9)年に港の北側に木更津海軍航空隊の飛行場が建設され、それに伴い航路、泊地、防波堤、護岸などの港湾工事も大型化し、1937(昭和12)年には、ほぼ現在の木更津港内港(吾妻地区)の形態が整った。

1937
(昭和12)年

軍国主義的色彩を帯びていく日本 物資不足により国民生活は圧迫される時代へ



衣料切符入れ(写真上)学徒動労働員・木更津高女生(写真下) / 「千葉県百年のあゆみ」より

1937(昭和12)年7月7日、北京郊外の盧溝橋付近で日本軍と中国軍が衝突した盧溝橋事件をきっかけに、日中戦争が始まった。資源の乏しい日本では、国民生活を戦争遂行の一点に振り向けるための国家総動員法のもと統制経済が敷かれた。1940(昭和15)年6月には、大都市で砂糖・マッチの切符配給制が実験的に実施され、同年11月には全国で実施されるようになり、次第に米等の主要食糧や衣類等も追加されていった。また、世相も次第に軍国主義へと移行し、1940(昭和15)年11月には大政翼賛会千葉県支部が創立。戦争に備えての挙国一致体制が急速に作られていった。

1939 (昭和14)年

ニューヨークの万国博覧会出品のため、房州うちわ5万本の注文

館山市誕生

1940 (昭和15)年

千葉商工会議所が創立

県内37の日週月刊紙が合併して「千葉新報」創刊

1941 (昭和16)年

陸軍飛行場が八街町(現八街市)に建設

船橋市行田の海軍無線塔から真珠湾攻撃艦隊に電文発信

1942 (昭和17)年

アメリカ軍機により、共和村(現旭市)の飛行場が本県で初めて空襲を受ける

千葉市黒砂台に東大第二工学部が創設

富津から洲崎(館山市)までの間で海水浴や登山が禁止に

木更津市誕生

1943 (昭和18)年

風船爆弾の実験が一宮海岸で実施

千葉銀行が創立

松戸市誕生

千葉市今井町地先埋立地に日立航空機千葉工場が完成

1944 (昭和19)年

近衛第3師団が九十九里浜で築城作業を開始

1930年代

商工会議所が県内各地で設立



千葉商工会議所 / 千葉市地域情報デジタルアーカイブ「千葉市史 第3巻 現代編」より

商工会議所は、「地域全ての商工業のバランスの取れた発達を図る」という使命を課せられていることから、極めて公共性の高い団体として営利や特定者の利益を目的とせず、要望や提言活動、地域振興などを行っている。

県内では1936(昭和11)年に銚子商工会議所が初めて設立された。その後も1940(昭和15)年に千葉商工会議所が設立するなど各地で設立された。

1943 (昭和18)年

千葉銀行が創立



千葉銀行のマッチラベル / 千葉県立中央博物館

昭和初期に千葉県に本店を置く銀行は6行あった。1943(昭和18)年2月に東金銀行は千葉合同銀行に営業を譲渡し、解散。同年3月31日に千葉合同銀行、小見川農商銀行、第九十八銀行の3行が合併して千葉銀行が誕生した。翌年に千葉貯蓄銀行を合併、同年に野田商誘銀行の営業を譲り受けたことで、一県一行主義の国策に従い、県内に本店を置く唯一の銀行になった。

1942 (昭和17)年

電灯の光を外に漏らさない灯火管制の通達と日本軍に大きな衝撃を与えた空襲



旧海軍香取航空基地慰霊碑 / 旭市教育委員会



慰霊碑側にある石碑 / 旭市教育委員会



掩体壕西側遠景 / 旭市教育委員会

とうかかんせい

1937(昭和12)年、空襲による被害を軽減する目的で、防空演習、灯火管制や消防の実施などの民間における防空の実施や、道府県における防空計画の立案に関する事項を定めた防空法が公布され、同年10月から施行された。また1939(昭和14)年1月に勅令をもって「警防団令」を公布。これにより、明治以来の消防組は解消し、警防団として同年4月1日に全国一斉に発足され、警察の補助機関として従来の水火消防業務に防空の任務を加えられた。

1942(昭和17)年4月18日には、銚子市犬吠埼東方約1,100kmの太平洋上にいたアメリカ軍空母「ホーネット」から、B25爆撃機16機が発進。日本本土に対する初めての空襲「ドーリットル空襲」が実施された。そのうち1機が香取航空基地に襲撃し、飯場1棟が消失。太平洋戦争開戦からわずか4カ月で本土への直接攻撃が行われ、日本軍に与えた衝撃は大きかった。

千葉県の歴史コラム

千葉県とサツマイモ

千葉県とサツマイモの歴史は古く、江戸時代、八代將軍徳川吉宗の命により、飢饉に苦しむ人々を救うため、青木昆陽がサツマイモの試験栽培を現在の千葉市幕張や九十九里町で行った。数年をかけた栽培は成功し、その後全国に広がった。

1937(昭和12)年に日中戦争が勃発すると、食糧不足が深刻となり、政府はサツマイモを主要食糧として位置づけ、増産対策を推進していった。その中で、サツマイモの新品種を作りだす育種組織の強化がなされ、千葉県農事試験場では、1942(昭和17)年に「農林1号」が育成



青木昆陽甘藷試作地の碑 / 千葉市立郷土博物館



青木昆陽肖像画 / 千葉市幕張公民館所蔵

された。終戦直後も逼迫する食糧事情は変わらず、空き地や公園、校庭、国会議事堂の前庭までもサツマイモ畑となっていた。

現在では、千葉県のサツマイモは成田市、香取市、多古町など県北東部を中心に栽培され、産出額は全国2位(2022年)と、全国有数の産地となっている。

1945 (昭和20)年

館山、八街、成東、木更津の飛行場がアメリカ軍機の爆撃を受ける

鈴木貫太郎(関宿藩出身)が総理大臣に就任

千葉市や銚子市 空襲により大きな被害

終戦

アメリカ軍が富津岬(富津市)と館山海岸(館山市)に上陸

「千葉新聞」創刊

1946 (昭和21)年

女性が初めて参政権を行使し、衆議院議員選挙を実施

昭和天皇が千葉県を巡幸

千葉軍政部開設

1947 (昭和22)年

川口為之助 初の公選千葉県知事就任

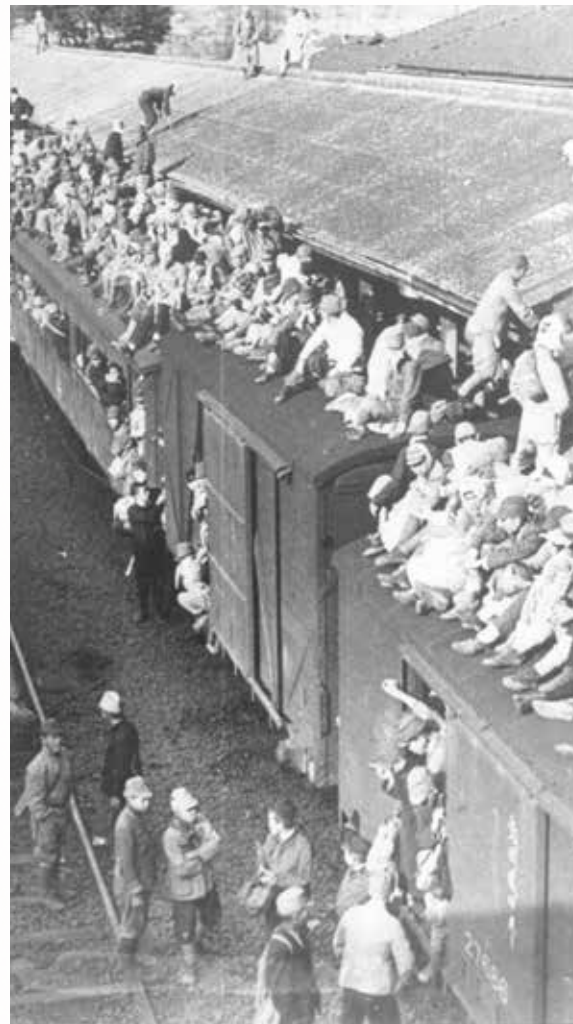
県下一斉に新制中学校が創立

県人口200万人突破

1948 (昭和23)年

九十九里町真亀に米軍射撃場が開設

アイオン台風 千葉県に上陸

1945
(昭和20)年超満員の
買い出し列車

屋根の上まで超満員の「買い出し列車」(八日市場駅) / 朝日新聞社

終戦後も食糧不足の状況は変わらず配給だけでは全く足りず、田畑を持たない都市生活者は、闇市に行くか、近郊の農村まで買い出しに行くしか食糧を得る手段がなかった。食糧生産県である千葉県には、現金やタンスの衣類を持参し、農作物を求める多くの人々の姿が見られた。戦後は極度のインフレで貨幣価値が下がり、農家では金銭より衣類が好まれた。そのため、買い出しに訪れる人の大切な衣類が1枚、また1枚と食糧に変わっていくことから「たけのこ生活」「たまねぎ生活」と称された。

このような買い出しの人々の足となったのが、東京から地方に向かう省線(国鉄・JR)や京成線などの鉄道。買い出し列車は時に、客車や貨車の屋根の上にまで人を乗せるほどの超満員であった。その中には闇市で販売する物資を運ぶ人も紛れていたため、千葉駅や蘇我駅などでは警察による抜き打ちの取り締まりが度々行われ、検挙される者もあった。

1946
(昭和21)年戦後の混乱からの再出発。
戦後復興を励ました昭和天皇の戦後巡幸

戦後巡幸 校舎を5校で共同利用する銚子商業を御視察される昭和天皇 / 朝日新聞社



田植え最中の水田を御視察される昭和天皇 / 朝日新聞社



銚子港を御視察される昭和天皇 / 朝日新聞社

1945(昭和20)年8月31日、米第112騎兵旅団が館山に上陸。10月には館山から千葉県庁に移駐して千葉軍政部と改称し、旧日本軍の解体や軍用物資の没収、民主主義思想の普及などの任務を行った。一方、県民は深刻な食糧不足に襲われ、県下主要都市にも闇市が立った。駅は買い出しの人々や復員兵、その出迎えの家族などでごった返し、混乱の極みであった。

そんななか、人々を励ましたのが昭和天皇の御巡幸だった。1946(昭和21)年1月1日、昭和天皇はいわゆる「人間宣言」を行い自らの神性を否定した。その後、2月の神奈川県から1954(昭和29)年8月の北海道まで、約8年半をかけ沖縄県を除く46都道府県を巡られた。千葉県には、1946(昭和21)年6月6日に御来県され水郷や銚子を御視察された後、新生駅(銚子近くの貨物ホーム。現在は公園)にて、特別列車内で仮泊された。翌日、銚子漁港や千葉駅、習志野などを御視察され、千葉街道を通ってお帰りになされた。

1947
(昭和22)年

戦後初の民選知事が誕生



民選による初代千葉県知事 川口為之助の銅像 / 千葉県

1945(昭和20)年の終戦後はGHQの指令により、様々な改革が行われた。その中のひとつが、同年12月17日に改正・公布された「衆議院議員選挙法」で、20歳以上の全ての国民に選挙権が与えられることとなった。また県知事や市町村長の公選制度が採用され、1947(昭和22)年4月には千葉県知事の第1回選挙が行われた。その結果、当選した川口為之助は初代民選知事として3年7か月の任期を務めた。

一方、戦後初めて男性と平等に参政権を得ることとなった女性の政界進出もめざましいものがあった。千葉県では1948(昭和23)年5月、安房郡神戸村(現館山市)にて県下初となる女性村長が誕生している。

1946
(昭和21)年戦後初の衆院選で、
女性国会議員が誕生

会社重役で千葉県選出の新日本青年党の竹内歌子 / 共同通信社

1946(昭和21)年4月10日、戦後初めての衆議院議員総選挙が行われた。女性の参政権も認められ、約1,380万人の女性が初めて投票し、39名の女性国会議員が誕生した。当時の衆議院議員の女性比率は8.4%だった。千葉県では新日本青年党から出馬した当時32歳の竹内歌子が県内初の女性議員として当選している。

1949 (昭和24)年

国立千葉大学創立

自治体の財源確保のために千葉競輪が許可

キティ台風の高潮で浦安町(現浦安市)の全域が海水に浸る

財政難や供米不振により1947年4月からの2年間で約100人の町村長が辞職

1950 (昭和25)年

千葉商科大学が創立

野田市誕生

船橋競馬が第1回競馬を開催

船橋オートレースが開催

川崎製鉄が千葉市に進出決定

柴田等 千葉県知事就任

千葉工業大学が創設され、現在の習志野市津田沼に移転

1951 (昭和26)年

大雪で交通が途絶える(40~60cmの積雪、千葉市野呂で133cm)

富津、鋸山、南安房3公園を県立公園に指定

千葉市検見川で大賀一郎らが2000年前の古代ハスの種子を発見(「オオガハス」と命名)

千葉県総合開発計画を策定

徳川武定氏が戸定の土地、屋敷を松戸市に寄付。3年後「戸定館」として開館。

1952 (昭和27)年

千葉興業銀行創立

茂原市誕生

日米行政協定により県内5施設のアメリカ軍への提供が決定

1949
(昭和24)年

千葉大学が創立



千葉大学の正門 / 千葉大学



千葉大学振興宝くじ / 千葉大学

1949(昭和24)年5月31日公布の国立学校設置法により、新制国立大学として千葉大学が創立した。千葉医科大学、同附属医学専門部、同附属薬学専門部、千葉師範学校、千葉青年師範学校、戦災で東京から松戸へ疎開した東京工業専門学校、園芸の伝統をもつ千葉農業専門学校の7校が、その前身となった学校である。当初は、医学部、園芸学部、学芸学部、工芸学部、薬学部の5学部での構成となった。11月5日には、医学部講堂において開学式を挙行。千葉大学では、同日を創立記念日としている。

大学の発足後、大学運営の資金不足を補う方法として、千葉県の主催で同年冬に「千葉大学振興宝くじ」という試みを実施。大学をはじめ企業、各市町村を通じてくじを販売した。自らの教学環境を整えるため、教職員や学生も寒空の下、友人知人、多くの県民へとくじを売りさばいたという。その甲斐もあり、1,000万円ほどの収益を上げられ、学内のいくつかの建物の新築を実現することができた。

1950
(昭和25)年

目の前に海が広がっていた船橋競馬場



1953(昭和28)年 船橋市若松1丁目の上空から、船橋競馬場(中央)周辺を空撮 / 朝日新聞社

現在の豊四季台団地近辺にあった柏競馬場が、1950(昭和25)年に船橋に移転。同年8月21日、船橋競馬場の初レースが行われた。

1960年代の埋め立て前には、現在の第2コーナー前に海が広がり、オートレース場も併設。1968(昭和43)年に船橋サーキット跡地に移転するまで、2つの施設が共存していた。場内には、1972(昭和47)年まで競走馬温泉療養所もあった。

1951
(昭和26)年

おおが いちろう

大賀一郎博士の試みにより、2000年前の古代ハスが、美しい花を咲かす



初開花と大賀博士(写真左) / 千葉市立郷土博物館 大賀ハス / 千葉市



1951(昭和26)年、植物学者でハスの権威であった大賀一郎博士は、千葉市検見川の東京大学検見川厚生農場(現東京大学検見川総合運動場)の地下約6mの泥炭層の下からハスの実を発掘。測定結果から2000年以上前の実と判明した。博士は自宅で3粒の実の発芽育成を試み、そのうち1粒のみが蓮根へと発育する。1952(昭和27)年4月7日に分根され、東京大学検見川厚生農場、千葉公園、県農業試験場の3か所に植えられる。7月18日博士の名にちなみ「オオガハス」と命名。1954(昭和29)年には、「検見川の大賀蓮」として千葉県の天然記念物に指定されている。その実や蓮根が国内外およそ200か所に植えられ、花の親善大使の役割を長年果たしてきた。

千葉県の歴史コラム

京葉臨海工業地帯の造成に取り組んだ県知事



職員に見送られる柴田等知事 / 朝日新聞社



千葉製鉄所・千葉火力発電所 / 千葉市

1950(昭和25)年、県知事に初当選した柴田等は、1962(昭和37)年までの3期を務める。県政の目指すべき目標として、産業の振興と県民の生活の向上が定められた。1950(昭和25)年11月、千葉市の日立航空機千葉工場跡に川崎製鉄の進出が決定した。1952(昭和27)年3月には、千葉県産業振興5カ年計画が策定され、京葉臨海工業地帯の造成が発展期を迎える。1953(昭和28)年、川崎製鉄千葉製鉄所が操業を開始した。

1954(昭和29)年には千葉港が国際開港場に指定され、国際貿易港として開港。基幹産業が集積する京葉臨海工業地帯の基盤的港湾として着実に成長する。以後、市原、五井地先の工業地造成が決まる。浦安、富津間の約80kmの海岸の埋立計画も決定し、半世紀をかけ遠浅の海を埋め立て、「京葉臨海地域」の土地を造成。飛躍的な発展を遂げる。

1953 (昭和28)年

富津公園(富津市)で第4回全国植樹祭の開催と天皇皇后両陛下の行幸啓

県立東金病院開設

内湾埋め立て反対の漁民大会開催。漁民約2,500人が県庁に押しかける

長生村誕生

1954 (昭和29)年

NHKが県の花を公募(「なのはな」が県花に)

千葉港が開港

東京電力の誘致決定

千葉市蘇我町の埋立造成を開始

成田市、佐倉市、多古町、東金市、旭市、習志野市、大多喜町、柏市誕生

1955 (昭和30)年

財源不足のため千葉県独自の犬税条例が交付・施行

船橋ヘルスセンター(船橋市)が開園

白子町、長南町、九十九里町、御宿町、神崎町、長柄町、芝山町、東庄町、栄町誕生

千葉市で川崎製鉄による大気汚染が発生

県立佐原病院、県立療養所鶴舞病院開設

1956 (昭和31)年

県農地開発課により東京湾干拓10カ年計画が立案

東山魁夷(市川市在住)が日本芸術院賞受賞

県内初の農業用ダム「三島ダム」貯水開始

1954 (昭和29)年

経済成長を支えた 一大物流拠点「千葉港」



千葉港の様子 / 千葉県立中央博物館



千葉港に初の1万トン級外航船「高栄丸」が入港 / 千葉市

1954(昭和29)年7月1日、千葉港は国際貿易港として関税法上の「開港」に指定され、外国貿易のできる港となった。以来、基幹産業が集積する京葉臨海工業地帯の基盤的港湾として着実に成長し、日本の高度経済成長を支える役割を担った。1965(昭和40)年には、全国で12番目の特定重要港湾に指定され、1968(昭和43)年の港湾区域拡張により地方港湾であった船橋港が千葉港に編入される。こうして市川市、船橋市、習志野市、千葉市、市原市及び袖ヶ浦市の6市の地先水面を港湾区域とする大港湾となり、現在の海岸線延長は約133kmに及び、約24,800haと日本一広い水域面積を有している。

1990年代半ばから外貨コンテナの取扱いも始まり、2011(平成23)年4月には、全国で18港ある国際拠点港湾の一つに指定された。2020(令和2)年の貨物総取扱量は全国で第2位。まさに我が国を代表する国際貿易港へと成長した。

1956 (昭和31)年

ひがしやまかい 日本画家の東山魁夷が日本芸術院賞を受賞



前列一番右が東山魁夷(写真は文化勲章伝達式のもの) / 朝日新聞社

昭和を代表する日本画家の東山魁夷が、長野県の野尻湖から見た黒姫山の秋景を描いた作品『光昏』で、第12回日本芸術院賞を受賞した。1968(昭和43)年には、皇居新宮殿の大壁画『朝明けの潮』を完成させた。1969(昭和44)年に文化勲章を受章。日本の文化の向上に、特に功績顕著な方々を顕彰する文化功労者として顕彰されている。東山は1945(昭和20)年から、1999(平成11)年に90歳で逝去するまで市川市に住み、数々の作品を描き続けた。生涯の大半を過ごした市川市からは名誉市民の称号が送られ、2005(平成17)年、市川市東山魁夷記念館が開館した。

1955 (昭和30)年

年間450万人が訪れた船橋ヘルスセンター



船橋ヘルスセンター / 千葉県立中央博物館

1955(昭和30)年“日本一大きい、日本一面白い、日本一安い、温泉と海と娯楽の大デパート”がテーマの「船橋ヘルスセンター」が開園。温泉や宴会場、海水浴場等、様々な娯楽施設を備えた巨大レジャー施設で、ピーク時には全国から年間450万人が訪れるほどであった。その後、レジャーの多様化や近隣でのテーマパークの開業等の影響を受けて、1977(昭和52)年5月に閉園。その跡地には、1981(昭和56)年に大規模商業施設「ららぽーとTOKYO-BAY」が建っている。

1950 ～

火力発電所の進出により安定した電力供給へ



現在の千葉火力発電所 / 株式会社JERA



千葉火力発電所 / 千葉県立中央博物館

1952(昭和27)年頃、東京電力は千葉県に対し、千葉火力発電所建設用地を求めた。当時、県内の発電所はいずれも小規模で、総需要のほとんどを県外からの電力供給でまかっていた。電力受給県から電力供給県への変貌は、千葉県にとっても悲願であった。

このような中で1954(昭和29)年、蘇我町に東京電力の誘致を決定した。1955(昭和30)年9月には約30万㎡の埋立造成が完了した。1957(昭和32)年から1959(昭和34)年にかけて、1号機から4号機までが順次運転を開始した。千葉火力発電所の総出力は60万kWとなり、一つの発電所としては当時東洋一の規模を誇り、千葉県経済の発展に寄与した。

千葉火力発電所は、その出力だけでなく、中央制御室によるオートメーション方式で従業員数が既設火力発電所の3分の1で足り、電気集塵装置^{しゅうじんそうち}で排煙から灰分を集め建設資材に利用するなど、当時の火力発電所技術の粋を集めたものだった。

1957 (昭和32)年

「千葉日報」創刊

九十九里米軍基地が返還

東京電力千葉火力第1号発電機が運転開始

木更津地区埋立による工場誘致計画成立

1958 (昭和33)年

日本住宅公団総裁の加納久朗が東京湾埋立に関する加納構想を発表

南房総国定公園誕生

狩野川台風により被害甚大となる(県内死者15人、農作物被害25億円)

勝浦市誕生

県の内湾埋立総合計画が決定

1959 (昭和34)年

鋸南町誕生

県公害対策協議会規則制定

1960 (昭和35)年

京葉道路開通(江戸川区一之江～船橋)

東京湾フェリー(富津市金谷港～横須賀市久里浜港)が運航開始

1961 (昭和36)年

君津市人見の海面埋立予定地に八幡製鉄(日本製鉄)の進出決定

常盤平団地(松戸市)の完成

1962 (昭和37)年

マザー牧場開園

浦安地区のオリエンタルランドと企業誘致関係協定を締結

新県庁舎(現中庁舎)完成

加納久朗 千葉県知事就任

1957
(昭和32)年

千葉日報が発行開始



千葉日報創刊号 / 千葉日报社

1956(昭和31)年に設立した千葉日报社が、翌年の1月1日に日刊紙『千葉日報』の発行を開始。千葉県全域を発行エリアとする唯一の県紙で、政治、社会、経済、スポーツ、文化、教育など、県民生活に密着した県内の多彩なニュースを発信している。千葉日报社の初代社長には、千葉県議会議員で松戸市長も務めた松本清が就任した。1958(昭和33)年には、株式会社化された。

1962
(昭和37)年

新県庁舎(現中庁舎)が完成



県庁舎(現中庁舎)(昭和37年落成) / 「千葉県百年のあゆみ」より

1962(昭和37)年9月8日、千葉市市場町に千葉県庁の新庁舎が完成した。建物は地上10階、地下1階建て、延床面積は23,532㎡で、現在は中庁舎として使用されている。設計は、内務省技師から大蔵省臨時建築部に移った矢橋賢吉と新進の久野節の共同設計であった。新庁舎の完成によってルネッサンス様式の旧庁舎は1963(昭和38)年に取り壊されている。

1958
(昭和33)年

雄大な海に囲まれた、南房総国定公園



南房総国定公園 仁右衛門島 / 千葉県立中央博物館

房総半島南部の海岸地域が、南房総国定公園に指定された。東京湾に細長く突き出た富津岬から、館山湾を通り、南端の白浜野島崎を回り、太東崎に至る約190kmの海岸線一帯と、内陸部の鹿野山、清澄山が区域に指定。現在7市3町にまたがり、その面積は5,690haにもなる。変化に富んだ海岸景観が広がり、豊かな自然環境の中で、多種多様な動植物が生息している。

1960
(昭和35)年

東京と千葉の大動脈、京葉道路が開通



一之江～船橋間開通パレード / NEXCO東日本関東支社

1960(昭和35)年4月29日に、東京都江戸川区一之江から船橋間の京葉道路の第一期区間が開通。翌年には、日本初の自動車専用道路に指定された。その後、千葉市まで区間が延伸され、1980(昭和55)年には、全長36.7kmとなる全線が開通した。以来、東京と千葉の都市部を結ぶ交通の大動脈として、物流や人流を支え、千葉の産業・経済・文化の発展に大きく寄与している。

1960
(昭和35)年

横須賀と富津を結ぶ東京湾フェリーが就航



東京湾フェリー(写真中央) / 公益社団法人千葉県観光物産協会

神奈川県横須賀市久里浜港から東京湾を横断し、富津市金谷港までを結ぶ貨客フェリー「東京湾フェリー」が、5月3日に運航開始した。約12kmの距離を当時、くりはま丸とかなや丸(共に初代)の2隻が約40分かけて運航し、観光客を中心に人気を集めた。船舶一隻に、最大で700人の旅客、トラック12台、バス9台、乗用車35台を乗せることができた。

1955～
(昭和30年代～)

柏市「荒工山団地」の入居開始を皮切りに関東最大規模の公団団地も登場



常盤平団地(松戸市) / 千葉県立中央博物館

1955(昭和30)年、住宅に困窮する勤労者のために住宅供給を目的とした日本住宅公団(現・UR都市機構)が設立。大都市圏を中心に住宅団地の整備を進めた。千葉県の人口は昭和30年代から急激に増加。これに伴い、県内にも大規模住宅団地が次々と出現する。

柏市では、1956(昭和31)年11月に「荒工山団地」で入居開始。東京近郊で最も早い賃貸団地の一つで、ベッドタウン柏市の幕開けを告げるものだった。翌年には「光ヶ丘団地」、1964(昭和39)年には「豊四季台団地」が建設される。また松戸市では、約5,000戸、170棟を擁する「常盤平団地」が、1961(昭和36)年に造成終了。当時の関東における最大戸数の公団団地が登場した。

1962
(昭和37)年

マザー牧場が開園



マザー牧場 / 千葉県立中央博物館

1962(昭和37)年2月、産経新聞や東京タワーなどを創業した前田久吉によりマザー牧場が開園した。

羊や牛、馬、ヤギ、ぶたなど多くの動物があり、観るだけでなく体験やふれあいも楽しめるほか、約200頭の羊の群れが一斉に大地を駆け抜ける「ひつじの大作進」などの催しも開催されている